

インターバンクの声（2017年4月4日）

週明けのドル円相場は、東京時間に付けた 111 円 50 銭台からニューヨーク市場では 110 円 80 銭台まで 70 銭ほど円買いが進んだものの、週末に米雇用統計の発表が控えており、一気に 110 円割れを狙うような動きではなかった。

東京市場が引けた後も、ロンドン市場からニューヨーク市場の朝方まで 111 円 20 銭台から 50 銭の狭いレンジ内での取引を続けたが、3 月の米 ISM 製造業景況指数の発表後にドルが売られ始めた。景況指数そのものはわずかながら市場予想を上回り、雇用の項目も前月から大幅に上昇しており、むしろドル買いに反応すべきだとも思われた。

あえてドル売りの理由を探せば、2 月の景況指数からは下落したことが挙げられるかも知れないが、元々ドルを売りたい連中が指標発表を利用しただけかも知れない。

米長期金利も低下しているが低下幅は小幅で、原油価格の下落も 50 ドルを割らずに済んでいる。ロシアの地下鉄爆破テロが材料になったのかも知れないが、確かなことは分からない。米中首脳会談、米雇用統計発表まではレンジ相場が続きそうだが、バイアスは円高に傾いているので急なドル下落には要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。